

# 広報

## 環境カウンセラーちば

第37号

特定非営利活動法人  
環境カウンセラー  
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。  
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

### 「浄化槽使用者向けの

### 啓発講習会を開催中」

平成19年12月に「平成21年度県とNPOとの協働事業」の提案公募が行われました。

千葉県は浄化槽の設置基数が多く、当時はまだプロジェクトセンターでなく、「水環境研究会」でしたが、浄化槽からの放流水の水質が問題であると考えていましたので、この機会に協働事業に提案することとし、下水道未普及地域における浄化槽放流水の水質レベルの向上を図る解決策として浄化槽使用者向けの講習会を県内11会場ですべて午前・午後の2回開講することを提案し、採択されました。

平成21年7月18日の第1回目の講習会（船橋市）を皮切りに、これまでに野田市（7月25日）、香取市（8月22日）、市川市（8月29日）、旭市（9月12日）、山武市（9月26日）、市原市（10月17日）、茂原市（10月24日）で順次開催し、広報第37号が発行される時点では次の3会場を残すのみとなりました。

当協議会会員の皆様には会場の手配、地域での受講者募集、講習会への出席とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

平成21年11月 7日 木更津市民会館  
平成21年11月 21日 いすみ市岬公民館  
平成21年12月 5日 南房総市千倉保健センター

今回の講習会は、次の内容で構成され、保守点検率の向上、清掃率の向上、単独（みなし）浄化槽を合併浄化槽に入れ替える、といった効果が期待されます。

- (1) 千葉県の水環境の状況（県内の河川・湖沼・海域の水質、浄化槽の設置基数など）
- (2) 浄化槽の法定検査の状況（7条検査・11条検査）
- (3) 浄化槽の概要（構造・機能・処理方法など）
- (4) 合併浄化槽と単独（みなし）浄化槽の差異
- (5) 生活排水が水系に与える影響
- (6) 保守点検（維持管理）および清掃の必要性
- (7) 水質分析の実習（透視度・pH・残留塩素の測定）

(9) 行政機関・関係団体の窓口紹介（リーフレットを配布）

これまでの受講者からのアンケートを整理しますと、1. このような浄化槽使用者向け講習会が初めてということには驚いた、2. 毎年開催して欲しい、3. 市町村単位で開催してほしい、4. 大変によい内容で、テキスト・説明とも分かりやすい、5. 単独（みなし）浄化槽使用者に聴いてほしい、などです。

今後への反省点、検討課題として、1. 受講者募集のための効果的な広報方法・利用するチャンネル、2. 地元市町村とタイアップし地域に密着した開催、3. 午前・午後と一日2回の開講の要否、などを把握することができました。

浄化槽使用者に対する直接の講習会として最初の試みでしたが、当初のねらいどおりの効果が達成され、また潜在的ニーズに応えることになり、協働事業として目的を達することができたと考えています。今回の貴重な実績をさらに発展させて、来年度以降にも継続実施できるよう県、市町村、関係団体と連携し、計画していくことにしております。

当協議会の会員の皆様には引き続いてのご協力とご支援を重ねてお願いいたしますとともに、「水環境対策センター」のメンバーとして一緒に活動していただける方を募っております。

（水環境対策センター副センター長 上口 清彦）



## 第12回企業環境セミナーの開催報告

10月9日（金）午後、当協議会は千葉商工会議所と共催で第12回企業環境セミナーを開催した。

企業環境セミナーは平成10年エコメッセの協賛事業として始めて開催したがその後、場所を千葉商工会議所に移してエコメッセとは切り離して開催している。

今回で、第12回目を数える。当初はISO14001の構築を啓発するのを目的にしていたが、次第に成熟され継続的改善を目指す方向に変わってきた。従って、参加者も当初は構築を検討している事業者が多かったが、最近では認証取得済事業者がほとんどである。

今年はそのような背景を踏まえて「ISO14001の有効性を高めるために！」というタイトルで開催した。

### 1. 基調講演「ISO14001の有効性を高めるために！」

・審査現場で見た有効性の高い事例と低い事例・

講師：杉本 公成氏（当協議会所属、ISO14001 主任審査員）

①JABも有効性について気に掛けている。

②有効性：計画した活動が実行され、計画した結果が達成された程度（JISQ9000）

③要求事項の項番毎に有効性の低い事例を示し、どうすれば高くなるかを中心に解説した。

④有効性の高い事例も要求事項の項番毎に提示した。

### 2. 事例紹介1「TOTOバスクリエイト株式会社」

・ユニットバスの開発、製造の住宅設備メーカーとしての環境活動とEMSで試みたこと・

講師：宮田 勉氏（当協議会所属、ISO14001 審査員補）

①製品搬入先の廃棄物回収に取り組み、総合リサイクル率31%（1997年）→98.7%

②CO2削減計画：2020年までに2007年基準20%と高い目標。

③環境負荷の低減の金額を算出し、目標に掲げている。

### 3. 事例紹介2「株式会社アルファテクノ」

・PC修理実績175万台「パソコン修理でCO2削減（PC省エネテクニック・PCでエコ）」・

講師：斧 純一氏（環境管理室次長）

①PC修理で再使用：1台修理あたり114kgのCO2削減。従って修理再使用を推奨。

②省エネ設定：短時間停止「スタンバイ」の奨め

### 4. 講演有効性を高める具体的な手法

#### (1)システム

環境影響評価、目的目標の設定方法、内部監査

講師：山本 光男氏（当協議会所属、ISO14001 審査員補）

①マネジメントレビューが最重要

②全員がそれぞれの役割・責任を持って行動

③環境パフォーマンス向上にはコスト削減活動

④環境側面を金額換算し大きいものを著しいとする。

⑤高い目標値の設定（5ゲン主義：現場、現物、現実、原理、原則）

#### (2)パフォーマンス

省エネ、CO2削減、廃棄物削減、有益な活動など

講師：廣川一男氏（当協議会所属、ISO14001 主任審査員）

①刺激力：環境教育を繰り返し、間断なく行う

②翻訳力：説明能力と経営層に対する環境情報の経営情報化

③連携力：環境経営を加速させる能力

④第三者認証にまつわる負のスパイラル

⑤ISO14001序文、用語の定義、付属書A、ISO14004

⑥チェックリストの活用

⑦マネジメントレビューで適切性、妥当性、有効性



今年は有料（1,000円）参加者66名と昨年に比べて約2倍の参加を得ることができた。その理由は、

①認証登録済企業337社へダイレクトメール

②セミナーを分科会方式から事例紹介方式にが主な原因と考えられる。

アンケートも53名からいただいた。

個々の講演に対して

・内容が適切 ・内容が物足りなかった

・時間が適切 ・時間が長すぎた・時間が短すぎたと

聞いたが、講演内容は概ね適切、時間についても適切が多かった。しかし、同じ講演に対しても長すぎたと短すぎたと記されたのもあった。

来年の企業環境セミナーの案内について、案内が欲しいが29名、不要が7名だった。

（環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵）

## 自治体向けEA21 地域普及セミナー の開催報告

千葉県ではエコアクション21（EA21）認証取得数が全国では10数番目多くない。この最大の理由は多い他県と比べて自治体が率先してEA21を推進していないからだと考えられている。

平成20年度に八千代市及び流山市がEA21の認証を取得した。それを機会に県内56の自治体向けのEA21普及セミナーを開催しようではないかという話になりお世話になっているEA21地域事務局千葉県環境財団及び千葉商工会議所において7月30日に開催の運びになった。地域事務局からすべての自治体へダイレクトメールで参加要請をしてもらった他、われわれ環境カウンセラーが訪問して参加を依頼した。その甲斐があつてか27名の自治体からの参加、その他の参加者を含めて総勢55名で開催できた。

内容は基調講演をEA21中央事務局事務局長森下研氏にお願いした。自治体向けのEA21にはマニュアルがあり、一般のEA21とは少し違った要求事項がある。

それらの留意点を中心に説明があつた。

その後、八千代市の事例紹介では、市庁舎だけでなく中・小学校、消防本部、清掃センターなど市のすべての施設を対象にしている。各部局（65ヶ所）への周知徹底に苦労したと説明があつた。

流山市はISO14001と比較し検討した結果、EA21を選んだ理由などの説明があり、取りあえず本庁舎とクリーンセンターの範囲で認証を取得している。

最後に自治体イニシヤティブプログラムという自治体が事業者を30社以上集めると無料で構築のコンサルを行う制度をわれわれのメンバーから説明した。



自治体向けEA21地域普及セミナー

一応、セミナーは成功したと思っているが、今後八千代市、流山市に続く自治体が現れるか、又はそこまで行かなくてもEA21に理解を持って支援してくれる自治体が増えることは間違いないと考えている。

（環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵）

## 内部監査員養成講座の開催報告 (ISO9001、ISO14001)

当協議会ではISOの内部監査員養成講座を千葉商工会議所との共催で開催している。市価より安い受講料で開催することを特徴としている。

ISO14001については平成17年度から始め、年に2～3回開催して今年11月で11回目、ISO9001は平成19年度から始め今年9月で7回目となった。このうち、当協議会のベテラン会員で、公的に認められた機関で内部監査員養成講座を担当し、環境省の環境功労者表彰も受賞している野口久氏が14001を8回、9001の全てを担当し、会社の取締役、監査役の経験があつてマネジメントサイドの視点からISOを見る西田啓作氏が14001の3回を担当してきた。



ISO9001内部監査員養成講座（6月26日）

講習の効果を高めるため定員を24名に限定しているが、ほぼ毎回定員に近い申し込みがあり、内容が分かりやすいと好評である。

養成講座の名の通り、新たに内部監査員になろうとする人たちを対象としている。しかし内部監査員を数年務めた人がリフレッシュの目的で受講する、あるいは環境（品質）管理責任者、事務局などを務め、ISOをよく知っている人が参加するケースがあり、一部に要望もあつたので、昨年度の14001はこれらの人たちだけを対象に「スキルアップ講座」も開催したが、参加者が少なく、1回で断念せざるを得なかった。

いずれも2日間コースで、講習内容はISO制定の経緯、ISO規格を解説し、内部監査の進め方は例題を解き、仲間議論し、結果を発表して講師のコメントを受けるワークショップ形式、さらにはお互い監査しあうロールプレイを行っている。この中で、内部監査員の力量がいかに大切か、経営に役立たせるにはどうしたら良いかなども説明している。

最後に理解度テストを行い、修了証を発行している。

（環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵）



平成 21 年度第 1 回施設見学

## ゴミから資源を・・・ 白井バイオマス施設見学に参加して

ストップ地球温暖化千葉推進会議会員 小野 良子  
(白井市)

2009年8月28日、白井市にある株式会社フジコーのバイオマス施設（国のバイオマスニッポン総合戦略にもとづくバイオマスの環づくり交付金制度の農水省と白井市によるバイオマスの変換施設整備事業）の見学会が、白井市環境フォーラム実行委員会、ストップ地球温暖化千葉推進会議及び環境カウンセラー千葉県協議会の共催で実現した。

参加者は、ストップ地球温暖化千葉推進会議 9 名、環境カウンセラー千葉県協議会 10 名、白井市関係者 15 名（白井市環境フォーラム実行委員会 11 名、白井市議会議員 2 名、市役所職員 2 名）であった。

株式会社フジコーの桑原会長、山本取締役事業部長による「会社設立の経緯と今後の抱負」、白井市環境建設部環境課の武藤係長による「白井市バイオマスタウン構想」の説明と進捗状況の紹介があった。

白井市の構想は、農村部からの梨の剪定枝、街路や公園や家庭から発生する剪定枝や刈り草、日常生活の生ゴミ、給食センターの残渣、工業団地からの木くず、紙くず、廃プラスチック等の廃棄物（年間約 5,000 t）をバイオマス資源として活用し、資源循環型社会をめざすというもので、民間活力利用として株式会社フジコーが 1998 年に事業を開始している。

その後、3 班に分かれて現場を見学した。

まず、食品系リサイクル施設で堆肥化施設、乾式メタン発酵・発電施設、飼料化施設を見学した。施設には環境先進国ドイツメーカーの機器が使用されている。

できあがった堆肥は農家や家庭に無料配布されている。今後は堆肥で玉ねぎを生産販売、飼料で養豚事業を展開するとのことで試験農園や養豚施設も見ることができた。

一方、建設系リサイクル施設では木くず、紙くず、廃プラスチック、がれきがリサイクルされている。細かく砕いた木くずが焼却され、炭化される。

それらが平成 19 年に完成したバイオマスガス化発電施設のエネルギー源となる。発電能力 1,800 kWh、発電効率 16%を計画しているが、現在は 10%である。

今後、未利用バイオマスである梨の剪定枝（92.5%）や家庭生ごみ（100%）などを 40%資源化して目標達成をめざす。

バイオマス施設は、現在地球が抱えているゴミ問題を

解決する（＝治療する）病院的存在だ。

「世のために役立ちたい」との桑原会長の言葉に頭が下がった。



乾燥飼料（見本品）



バイオマス受け入れ場



炭化炉

## 「エコメッセ2009inちば」へ出展

今年のエコメッセは、「地球温暖化と生物多様性」～エコメッセで暮らしを変えよう～をテーマとして9月6日に幕張メッセ国際会議場で開催された。1996年から開催されてきたエコメッセは、今年で14回目になる。今年には金融不況の影響で企業の出展が危ぶまれていたとのことだが、蓋を開けてみると出展者数は全部で120団体近くになって過去最高を記録、さらに来場者も初めて1万人を超えて10,100人と盛況であった。

特に子供連れ家族の参加が多いように見えた。また、千葉県知事や千葉市長が会場に来られたのも初めてのことであり、それらに関連したエコステージ企画「こどもエコメッセージ発表」（森田県知事および野口健さん出演）や「エコメッセ・パートナーシップトーク」（熊谷千葉市長出演）も新しい試みであった。

EC千葉は「EC千葉は環境保全に協力しています」を統一テーマに組織の紹介、環境学習センターの活動、エコアクション21の活動、県との協働事業である「浄化槽設置者に対する啓発教育」の紹介のパネル展示とチラシ配布を中心に行った。また、実行委員会で実施したエコクイズラリーに参加した。「家庭の汚れで大きいのは、トイレ、台所、洗濯のいずれか？」という問題で、沢山の子供や親子連れの来場者がブースを訪れ啓発活動として盛況であった。ちなみにクイズの正解を皆さんはご存知だろうか？家庭から出る生活排水は1日1人当たり約250Lで、汚れの目安であるBODは43g、その中で、トイレ排水のBODは13g、台所は17g、洗濯は4gというデータがある。

今年は来場者参加型の出展ができず、例年のようにブースの前が人だかりでにぎわうほどではなかった。来年は子供達の興味を引くデモをぜひ企画したい。

今回のエコメッセでは、EC千葉以外のストップ温暖化、生物多様性、太陽光発電などのブースや、エコメッセ事務局、クイズラリー事務局などでのEC千葉の会員の幅広い活躍が目を引いた。



(事業部長 茂利 晃)

## 千葉友の会「子どもひろば 環境学習会」について

6月13日に千葉友の会「子どもひろば 環境学習会」が開催され、環境カウンセラー千葉県協議会環境学習センターから4名が講師をつとめました。

千葉友の会は、「自然との共生を目指した環境保全」をモットーとして活動しており、私たちがお手伝いする環境学習会としては平成19年7月に続いての第2回目で、お子さん18名と保護者・会員様36名とで計54名様が参加されました。

<みんなで防ごう地球温暖化!!>をテーマとして、最初に全体で①「地球温暖化について学ぶ」を学習した後、2班に分かれ、②「電気の節約を進めよう」と③「ごみを減らす」を学習し、最後に全員で、④「まとめ」の時間を持ちました。二酸化炭素による石灰水の白濁実験、人力発電機による発電体験、照明電力の比較実験、実サンプルを用いたごみ分別といった体験学習をとおして、お子さんにも興味を持って学習していただき、地球温暖化問題を考える第一歩となったものと考えます。

お子さんから何通もの素晴らしい感想文をいただきました。主なものをあげますと、

- ・今回、環境問題に向き合って、自分にできることはできるだけやろうと思った。
- ・大人になっても今回のことは忘れずに過ごしたい。
- ・友達にいっぱいたくさん話して、地球温暖化が少しでも減らせるようにしたい。
- ・生ごみが肥料になることを初めて知ったので、母と一緒に実験したい。
- ・自分が少し気をつけることが人のためになるのだと思った。

など、私たちの話を素直に受けとめられるお子さんたちの姿勢、素直な心に感心させられるとともに、私たち講師をつとめる者の責任の重大さを再認識させられました。



(地球温暖化対策センター副センター長 服部 達雄)

## 木更津高専への環境学習出張授業報告

当協議会（EC 千葉）の環境学習センターでは、平成17年度（2005）の県立船橋北高校の環境学習授業を皮切りに県内の小学校、中学校及び高校に出前の環境学習を展開している。

本年5月、国立木更津工業高等専門学校（環境都市工学科）の湯谷 賢太郎先生から、当協議会のホームページをごらんになって、「高専の学生相手の講義が可能か」との問い合わせがあった。早速、高専での授業は初めてであるが、今までの活動実績をもとに対応できそうと回答した。

先生から、「対象は環境都市工学科に在籍する5年生44人で、将来、多くが土木や環境分野での技術者として働くことになる。今後、市民の方と一緒に仕事を進める機会も少なからずあり、環境保全活動を行っている市民のどのような方がどのような思いで、どのような活動をしているのかを学生に知ってもらい機会を設け、EC千葉の活動内容も入れて出張授業ができないか」という要望があった。

そこで、同校の近隣から講師二人を選び、ありがたく受託することとし、7月23日に、以下の内容で2時間の出張授業を行なった。

1. EC千葉の活動を中心に県内の環境NPOの活動について

- 1) 市民公益活動に参加の意味づけ
- 2) NPOとNPO法人
- 3) 環境カウンセラー制度
- 4) EC千葉のあゆみ
- 5) EC千葉の組織
- 6) EC千葉の活動内容

2. EC千葉の環境学習の実施例と内容紹介

- 1) EC千葉の環境学習活動の経緯と概要
- 2) EC千葉が確立している授業案
- 3) EC千葉が準備している教材
- 4) 授業概要
- 5) 教材からみる千葉県の環境

授業を受けた学生諸君は、環境工学を専門にしているだけに環境保全活動に関心が高く真剣な態度であった。

同校ではさらに進学する学生が多いとのことで進路を決めるときでもあり、質問も具体的なものが多かった。

県内の環境NPOについてこれからコンタクトしてみたいが、あまりに数が多いのでどうしたらよいかなどの質問があった。

今後も同校へのお出張授業でお役に立てればと思う。

（理事長 國廣 隆紀）

## 県立茂原高校への環境科学特別授業報告

平成21年9月15日と29日の2回に分けて、県立茂原高校の3年生13名対象に「調べよう水の循環」の特別授業を実施しました。

茂原高校での授業は、前回（2年前）に続いて2回目となります。

茂原高校は女学校として100年以上の歴史のある古い学校で、現在は男女共学となっています。

授業初日は講義主体で行いました。

水とその性質、地球の水資源、地球規模の水循環、更には身近な茂原市での水がどこから来てどこへ流れて行くか、また茂原地区特有の天然ガスと地下水についても触れました。

二日目は、5組に分けて、生活排水処理に活躍している活性汚泥を顕微鏡で観察する実習等を行いました。

生徒たちの授業態度も良く、担当教諭の宮本先生（生物が専門）のご協力を得て、授業はスムーズに進行しました。

しかし、今後考えるべきことは、1時限が50分と短いので、テキストの事前配布と講義テーマの集中とパワーポイントのビジュアル化をする必要があると感じました。

特に、授業が2回に分散すると、毎日が初対面に近く、生徒の顔を覚えられないので連続2時限とする場合は、やり方を考える必要があります。

観察実習では、持参した活性汚泥の活性がやや低下して、2つの組では生きた微生物を見つけ出せずに他の組のサンプルを観察しました。生物を相手のむずかしさで、実習用サンプルの入手方法が今後の検討課題です。

いくらかの問題は残ったにせよ、生徒たちが身近な「水」に関心を持ったことには確かな手応えがありました。

今後の生徒たちの生活の意識改革の助けになれば幸いです。

また、若い生徒を教育することがいかにむずかしいか、学校の先生は大変な職業であることを実感しました。

私たちがこの経験を生かして授業内容や展開方法を工夫して、より分かりやすい環境教育に協力していきます。

（水環境対策センター副センター長 見並勝佳）

（水環境対策センター副センター長 上口清彦）



## 南房総市民環境大学への講師派遣

平成18年(2006)3月に安房郡の富浦町、富山町、白浜町、千倉町、丸山町、和田町、三芳村が合併してできた、南房総市では毎年、千葉大学生産工学部の共催のもとに市民を対象とした「南房総市民環境大学」が開催されている。

本年4月、南房総市生活環境部環境保全課環境都市づくり推進室から、平成21年度も開催するにあたって、今年度はNPOやNGOで活躍されている人を講師とし、「どんな環境問題があって、原因は何で、それらを解決し、豊かな環境を将来の世代に残していくために、一人ひとりができることは何かを学ぶ」をテーマにしたいので、当協議会(EC千葉)に協力の要請があった。

「南房総市民環境大学」は、年内に7回の講座が設けられ、そのうちの4回の講座を担当する講師を派遣するというものである。

早速、EC千葉の環境学習センターで保有する環境学習のテーマリストの中から8テーマと担当講師を選び、採択をお願いした。その結果、つぎの4テーマを採択された。

第2回(9月26日)

省エネルギー・加速させよう! 省エネルギーの取組み

第3回(10月10日)

水環境・調べよう 水の循環

第5回(11月7日)

太陽光発電・太陽光発電で地球を救う

第6回(11月14日)

食と環境・フードマイレージと地産地消

南房総市では定員100名の受講者を募集されたが、98名の申込みがあったとのことで、市民の方々の関心が高いことが分かる。すでにEC千葉が担当している4テーマのうち、2テーマが終了しているが、出席者も多く、質問もレベルの高いものが多かった。



(理事長 國廣 隆紀)

## 自動車整備業のEA21認証取得支援

エコアクション21(以下、EA21と略す)の普及促進のために、地方自治体が地域内の事業者呼びかけてEA21への取り組みを推奨し無料の講習会を開くと、中央事務局がその費用を負担又は支援する制度を設けており、「自治体イニシアチブ」と呼んでいる。

また、民間企業、業界団体、商工会議所等が中心になって会員企業や取引先を集めて同様な事を行うのを「関係企業グリーン化プログラム」(以下、GPと略す)と呼んでいる。

平成20年度では自治体イニシアチブが47件、関係企業GPが23件実施され、本年10月で認証・登録件数が4000を超えるのに大いに貢献した。

この関係企業GPに損害保険会社が昨年度は2社、今年度はさらにいくつかが新しく参加している。

環境カウンセラー千葉県協議会(以下、EC千葉と略す)はM損保、T損保、A損保のGPと協力している。

このうちM社とT社は対象業種を自動車整備業に絞っているが、A社は保険代理店をはじめとして広く一般業種も視野に入れている。

自動車整備業は、エンジンの洗浄等により燃費を改善するとか、タイヤに窒素ガス充填、エコアスコード取り付け等の「エコ整備」に取り組んでおり、登録・認証件数が全体の7%以上を占めて注目されていたが、一昨年一部コンサル、審査に疑義を伴うケースがあった事が明るみに出て、4月には中央事務局が襟を糺すために指針を出している。

各社とも4回の講習会を予定している。

M社からは昨秋EA21地域事務局経由で依頼され、中央事務局主催の自動車整備業講習会に参加したEC千葉に所属の審査人2名が講師を務め、3名がオブザーバーとして出席し、4回を終了して参加7社の審査申込を待っている。

T社関連の5社については大阪の地域事務局からEC千葉に地元としての協力依頼があり、講師としてEC千葉から審査人5名が参加しており、講習会は来年1月の最終回を残すのみとなっている。

何れも参加各社から審査申込があり次第、地域事務局が地元の審査人を選任することになっている。

EC千葉としては、EA21の尚一層の普及を図るために、これら損保会社に協力して行く計画である。

(EMS支援センター副センター長 西田 啓作)

21年度自然観察会  
「フォッサ・マグナを往く」  
=本州中央部における地形・地質と  
植生・土地利用=

9月28～29日に行なわれた自然観察会は、今回も当協議会（EC千葉）の顧問である小角さんに導かれ、林さん、阿部さん両幹事のご尽力で、大成功でした。

両日とも変わりやすい天気の中を、ほぼ予定通りの行程で、一部を変更して、川中島と八ッ場ダムまで見学できました。また、会員だけではなく、一回り大きく参加者を得て実施されました。(22名)

バスの車中だけでなく全行程で、小角さんから、「フォッサ・マグナの西の端が決められないのは古いものだから、その上を浅間山や八ヶ岳などの新しい火山帯が埋めてしまったので」等などの講義に一同、聞き入りました。

めざした長野では、稲刈り前の黄金色の田が続く豊かな秋の景観を眺めながら、山並みに向かいました。

千葉から行くと山並みや、家々の広い敷地に圧倒されます。山間の畑にソバの白い花。昼食、夕食もソバが出ました。

梅池の根性の木・ダケカンバ

ゴンドラで上がった1860mの梅池自然園では、霧に包まれながらショートコースを回りました。湿原の中に、のたくるようにして生息している木がありました。横方向の雪解けを押し付けられながら耐え、なんとか春の芽吹きを迎えた苦渋の年月の姿と我人生を重ね合わせて感無量。木霊のど根性をいただきました。

梅池ヒュッテ手前の流れには、岩魚がゆったり泳いでいました。夜の部は、車中の医療相談会は何処へやら、皆、楽しく飲みました。

川中島～浅間山が見えた！

2日目午前はオリンピック記念館とジャンプ場、川中島合戦跡の長野市立博物館を見学。川中島とは千曲川と犀川に挟まれた地形で、島ではありませんでした。

ここでも上杉謙信が武田信玄を槍で打ち取れなかった悔しさに、槍で貫いた石がありました。恐るべし！

博物館には花火や、その打ち上げ筒も展示されていました。点火は上から放り込む、いや、下から火をつけないと上がらないと喧々諤々。学芸員から千葉に帰ったら、花火の揚げ方を調べて下さいと宿題が出されました。博物館とは次の学習につなげる所なのでした。

天明に大噴火した浅間山の溶岩流が固まった鬼押し出しでは、黒々とした奇岩の間に秋の彩の植物が映えていました。

浅間神社には厄除けの神様が祀られていました。雲の合間に浅間山頂が、外輪山も見られました。

近くの村では噴火で流されてきた土砂、岩で、ほとんどの人が埋まって死んでしまったとのことでした。

生死の分かれ目となった観音堂の石段を前に合掌。

吾妻溪谷の八ッ場ダム

ヤマトタケル伝説の孀恋村で高原野菜を昼食に頂き、帰路は415号線を吾妻溪谷へ。公共事業見直しで、建設か、中止かが問題になっている八ッ場ダムを通りました。建設中の橋や、付け替えの道路の一部、ダム下流の護岸が見えました。

千葉市着21時、「今回は、数億年前のフォッサ・マグナから、中世の川中島、現在の問題の八ッ場ダムまで現地を回れました。」と國廣理事長からガイドをつとめていただいた小角さん、幹事の林さん、阿部さん、参加された皆さんへの感謝の言葉で締めくくられました。

後日、小角さんから、今回、望見できなかった釈迦堂PAからのフォッサ・マグナ東縁（南アルプス）方面、迂回した草津・志賀高原ルート of 航空写真が参加者に送られ見入りました。本当にありがとうございました。

(環境学習センター 鈴木 優子)



宿泊した梅池ヒュッテにて



川中島公園にて



## 新入会員紹介

### 船橋 孝之 (ふなばし たかゆき)

事業者部門・千葉市

私の主な仕事は、環境測定（排ガス、騒音、振動）です。

学生時代からの専門は、炭素の地球循環で、今一番勉強しているのが、排出権取引です。

今、取組んでいるのは、コココーラさんとマイボトル・カーボンオフセット対応自販機の開発で、現在一人で活動しているので、ご興味ある方はご連絡下されれば助かります。

これとは別に絵画やデザインの趣味が講じて「カラーコーディネートの本」の書籍を発行しています。

### 田 博秋 (でん ひろあき)

市川市

私は、2000年4月から2009年8月まで、ベビー用品メーカーの環境管理室にてISO14001の導入及び運用管理業務についていました。

社内での管理活動はもとより自社が運営する保育園での環境活動を実施してまいりました。

保育スタッフを通じて子供達や親御さん、近隣の方々までも巻き込んだ環境活動が年間を通じて実施されるシステムを構築し、多くの子供達に影響を与える事ができたと考えています。

この経験を活かし環境カウンセラー千葉県協会においても子供達への環境学習活動にも取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

### 野田 竜吾 (のだ りゅうご)

茂原市

現在私は、エコアクション21の審査人のほか、技術士（建設部門）であり、計画・立案・評価等に関する建設コンサルタントとして活動しています。

昨今の建設事業は、環境に関する国、自治体等行政上の取り組みを、常に意識、確認する必要があり、環境方針抜きに前進は不可能です。このため、自然・社会環境に対する配慮精神は日常的に培われていると自負しています。

この知識を基に、審査人としての活動範囲を上げながら本会会員として微力ながら貢献していきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

## 平成21年度秋季研修会開催のご案内

事業部長 茂利 晃

今年の当協会（EC千葉）の秋季研修会は、環境省 関東地方環境事務所 環境対策課の寺西 武夫課長補佐に「環境カウンセラーにこれから期待すること」と題してご講演いただくことになりました。

その内容についてしっかり理解したうえで、そのあと「環境カウンセラーとして何をなすべきか」をテーマにワークショップを行い、今後の自らの活動だけでなく、EC千葉の活動計画にまとめたいと思います。

つきましては、下記のようにとり行ないますので、ご多忙中、誠に恐縮ですが、積極的なご参加をお願いいたします。

記

- 日時：平成21年11月14日（土）  
朝10時～夜21時研修、14日宿泊、15日朝解散
- 場所：（財）海外職業訓練協会（OVTA）  
千葉市美浜区ひび野1-1  
<http://www.ovta.or.jp> TEL 043-276-0211  
JR京葉線 海浜幕張駅下車 北方面 徒歩8分
- 研修会のテーマ：  
「環境カウンセラーとして、これから何をなすべきか」
- 研修プログラム：  
午前10時～12時 講演  
「環境カウンセラーにこれから期待すること」  
関東地方環境事務所 環境対策課  
課長補佐 寺西 武夫氏  
正午～午後1時 昼食  
午後1時～5時 ワークショップその1  
討議「環境カウンセラーとしてこれから何をなすべきか」  
午後6時～7時 夕食  
午後7時～9時 ワークショップその2  
各グループの発表と纏め
- 費用：  
◆14日宿泊、15日朝食後解散の場合 10,600円  
◆14日夕食後、宿泊しない場合 3,800円
- 参加申し込み：  
事業部 [ec\\_chiba\\_jigyoubu1@yahoo.co.jp](mailto:ec_chiba_jigyoubu1@yahoo.co.jp)  
FAX 043-489-8465  
参加申し込みの締め切りは、10月29日でしたが、宿泊しなければ当日参加でも可能です。

以上

## E C U 便り

E C U 担当 土田 茂通

NPO環境カウンセラー全国連合会（E C U）では、平成 21 年度の事業活動が始まり、各種イベントも行われている。

環境学習関連では環境学習インストラクター養成講座が、11月22日（日）10時～16時30分まで、あんさんぶる荻窪にて開催される。

また緑化エコリーダー養成講座（小角 E C U 常務理事担当）は、東京で6月27日、28日の両日、第1回の本講座を開催した。

この緑化エコリーダー養成講座は引き続き、次回開催を千葉県で行うことを決めて企画運営に着手している。

環境省主催の平成 21 年度関東地区環境カウンセラー研修会（土田 E C U 常務理事担当）は、E C U が企画運営を行い、10月26日（192名参加）、27日（194名参加）の両日、開催された。

その基調講演は、小林 光事務次官により行われた。

一方、専門研修は、つぎのテーマで開催された。

- ① E A 2 1 で重要な役割を期待される審査人
- ② 地球温暖化防止「二酸化炭素の削減について」
- ③ 自然環境保全と生物多様性について
- ④ 新規研修

E C 千葉からは小角顧問が、③のテーマのコーディネーターを務めた。

## メールリストを使うにあたって

メールリストは、同時に多くの方に情報を発信できるので大変便利です。しかし、同時同報で送られてきた情報に対して、送信者にのみ返事を送ればよい場合でもうっかり返信してしまいますと、全員に返事を送って迷惑される方がおられます。メールリストでうっかり返信しないようにするためには、まず同時同報を送信する人もできるだけ返信を求めないようにしましょう。

## 総務部からのお知らせ

2009年7月12日～2009年10月5日の間に、当協議会（E C 千葉）への寄付金として、つぎの方々がくださいました。

有馬 富穂様	96,500 円
大山 長七郎様	4,000 円
阿部 邦夫様	15,000 円
戸村 泰様	4,000 円
野口 久様	10,000 円
野口 康男様	5,000 円
二宮 恵様	27,000 円
服部 達雄様	4,000 円
林 正徳 様	44,000 円
古川 邦男様	11,000 円
合計	220,500 円

どうもありがとうございました。

## 編集後記

☆ 日本の 2020 年までの温室効果ガス排出量の中期目標の策定にあたり、いくつかの目標案が設定され、これに対し、いろいろな立場の方々が論陣を張られました。最終的に麻生前総理の決断で色々な条件はあるものの 15%削減に落ち着いていました。そしてさきごろ、鳩山現総理はやや計算方法は異なるものの、さらに高い目標の 25%削減と世界に公約されました。

人類の、いや地球の未来のために何としても目標達成をめざしたいものです。それを実現できるのは地球上で生活している私たち一人ひとりにちがいないと思います。

☆ 新型インフルエンザが猛威を振るうことが予想されています。できるだけの予防をしましょう。

## 広報 環境カウンセラーちば 第 37 号 （発行日 2009 年 11 月 8 日）

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会（発行責任者：國廣 隆紀 会員：126名）

URL：[http:// www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm](http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm)

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂 3 丁目 18 番 2 棟 505 号 戸村 泰方（郵便宛先）

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 [ec\\_chiba\\_exec@yahoo.co.jp](mailto:ec_chiba_exec@yahoo.co.jp)（各種ご相談、お問い合わせ先）

郵便振替口座：00110-5-34692（加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会）会費はこちらに！

編集：広報部 國廣 隆紀・佐藤素子・二宮 恵・松本源寿

E-Mail [pxz04373@nifty.ne.jp](mailto:pxz04373@nifty.ne.jp)（記事寄稿先）

再生紙を使っています。